

I. 設計条件

この課題は、既存の美術館(以下本館)の敷地内にある植物園だった跡地に、市民から要望の高かった工房付の美術館「分館」を計画するものである。本館は切妻屋根を使った伝統工芸美術館であり、新たに計画する分館にも落ち着いた佇まいが求められている。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」とおりである。
- 敷地は道路及び隣地との高低差はないものとする。
- 敷地は、近隣商業地及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は70%容積率の限度は200%である。絶対高さ制限が15mと指定されている。またたたる屋根は勾配屋根(2/10以上)とし景観に配慮する。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好であり、杭打ち等の必要はない。
- 河川の氾濫、日影及び積雪の配慮は不要とする。

2. 建築物

- 構造、階数等
地上3階建ての建物とし、構造形式は自由とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,800m²以上3,200m²以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段、屋上設備スペース、屋上庭園及びアート広場は、床面積に算入しないものとする。なお、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(娯楽スペース、設備スペース、駐車場等)については、床面積に算入するものとする。また、エレベーターシャフトは容積率には算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。なお收藏関連の諸室は計画する必要はない。

部門	室名	特記事項	床面積
*利用者が使う居室で40m ² 以上のものは指定されている室を除き、全て天井高さ3m以上とする。			
展示部門	*展示部門は本館展示部門(2階)との動線に配慮する。		
	多目的展示室	・展示やイベントに利用する。 ・天井高さは6m以上とする。無柱空間とする。 ・前室、倉庫、空調機械室を設ける。ただし多目的展示室の室面積には含まないものとする。	150m ² 以上
	展示室 1/2/3	・展示やイベントに利用する。 ・約100m ² を3室設ける。	計 約300m ²
アートリエ	荷解室	・前面をシャッターとし、一時保管倉庫を設ける。	約50m ²
	木工工房	・各工房は、工房管理室で利用層を出し、予約なしで気軽に利用できる運用をイメージしている。	200m ² 以上
	金属工房 染色工房 工房管理室	・準備室、講師控室等を設ける。 ・作業台、イス、流し等をレイアウトする。	約50m ² 約50m ² 約20m ²
創作部門	ロッカー ルーム	・工房用として男女別に設ける。 ・洗面、シャワーブース、ロッカー等を設ける。	計 約30m ²
	アトリエA/B アトリエC/D アトリエE/F	・ワークテーブル、流し台、ロッカーを設ける。 ・合計6室、計約400m ² とする。 ・アート広場への動線に配慮する。	各約100m ² 各約70m ² 各約30m ²
	共用部門/他	・本館、駐車場からのアプローチに配慮する。 ・風除室を設ける。 ・案内用無人AIカウンターを設ける。 ・上部に吹抜け(短辺/長辺=1/2以上とし、110m ² 以上、かつ風除室上部及び階段上部は含まず)を設ける。吹抜け内に2階とつなぐ階段を設ける。	適宜
カAFE	・テーブル、イス、カウンターで25席以上設ける。 ・厨房を設ける。 ・外部からも出入りできるようにする。		
	休憩スペース 事務室	・各階に設ける。 ・休憩・囲んでできるよう配慮する。 ・5人分の事務スペース(6m ² /人以上)とする。 ・本館2階からのアクセスを管理できるところに配慮する。そのため案内カウンターを設ける。	適宜
設備スペース	便所	・男、女、多機能トイレ(オストメイト対応)を各階に設け便器、洗面、SK等をレイアウトする。	
	設備スペース	・空冷ヒートポンプ室外機、外気処理空調機、電気設備を設置する。 ・機器のメンテナンスに配慮した配置とする。 ・その他、採用した設備計画に応じて計画する。	適宜
*上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3. その他の施設等

- 駐車場は平面駐車と管理・サービス用として1台分を設けるそれ以外の一般利用者は美術館敷地の北側駐車場を利用する。
- 駐輪場は、2.0m×0.5mとし、20台分以上設ける。
- 屋上庭園(面積100m²以上)を3階床レベル(2階屋上部分)に設ける。植栽用の客土(t=500程度、50%以上)を設ける。屋外フェニチエアを設ける。
- アート広場(面積200m²以上)を地上に設ける。アトリエや工房での作品を展示したり、様々なイベントを開催する。アプローチと兼ねてもよい。
- 本館2階(本館2FL=GL+4.500)と本館ブリッジエリア内に接続可能なブリッジ(幅4mとし、構造は自由)を設ける。なお、本計画では当該敷地内部分のみ計画する。

4. 留意事項

- 建築計画、構造計画及び設備計画については、次の点に留意して計画する。
- 建築物はバリアフリー、セキュリティ、省エネルギー、景観に配慮する。
 - 利用者の当該敷地へのアプローチは、本館及び駐車場からの動線に配慮する。また各部門は利用形態に応じて適切に計画する。
 - 敷地条件(方位等)や周辺環境に配慮するとともに、空調負荷の抑制や自然光の利用、日射遮蔽及び通風等を用いて、建築環境負荷低減に配慮する。
加えて本館展示部門(2階)からブリッジを使って直接分館2階とつなぐものとする。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架構形式、スパン割及び基礎構造について適切に計画すると共に、適切な断面寸法の部材を配置する。
 - 設備機器の搬出入及び更新に配慮した計画とする。また乗用エレベーター及び人荷用エレベーターを適切に計画する。
空調設備には、外気処理空調機を含む空冷ヒートポンプ方式を採用する。
 - 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分には、所定の防火設備を適切に計画する。また、防火区画(面積区画・堅穴区画)が必要な部分には、所定の防火設備を用いて適切に区画する。なお、本建築物は、自動式のスプリンクラー設備等を設けられないものとし、また「避難上の安全の検証」を行わないものとする。
 - 非常用進入口もしくは進入口に代わる窓など(代替進入口)を設ける。また廊下を含む共用部分の排煙を適切に計画する。
 - 地上に通ずる2以上の直通階段を適切に計画する。また、必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。

II. 要求図書

【答案用紙Ⅰ】の定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)
下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。なお各図面には、必要に応じて計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1階平面図兼配置図 1/200	① 1階平面図兼配置図、2階平面図及び3階平面図に、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度)ロ.室名等 ハ.設備シャフト(ハイブリッドシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS))の位置 ニ.設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する。)
(2)2階平面図 1/200	② 2階平面図に、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の出入口(▲で表示)、通開口(△で表示) ロ.駐車場(台数及び出入りを明示する。) ハ.敷地内通路及び避難上有効な寸法の明示(ある場合のみ) ニ.アート広場、通路、植栽等
(3)3階平面図 1/200	③ 3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ.下階の屋根、ひさし等となる部分 ロ.居室の最も近い位置から2の直通階段に至る歩行経路、その一に至る歩行距離及び重複区間の長さ ハ.本館ブリッジ(幅4m程度)
(3)断面図 1/200	④ 3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ.下階の屋根、ひさし等となる部分、屋上庭園 ロ.居室の最も近い位置から2の直通階段に至る歩行経路、その一に至る歩行距離及び重複区間の長さ ハ.非常用進入口もしくは代替進入口(△)の位置
(3)断面図 1/200	⑤ 断面図には、屋根の勾配及び立体構成がわかる位置とする。なお水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ⑥ 屋上に設備スペース(ある場合)を図示する。 ⑦ 建築物の最高の高さ、階高、天井高、1階床高、基礎底盤及び主要な室を記入する。 ⑧ 梁、壁、基礎、スラブの断面を図示する。 ⑨ 延焼の恐れのある部分及び、防火区画の防火設備、特定防火設備を図示する。

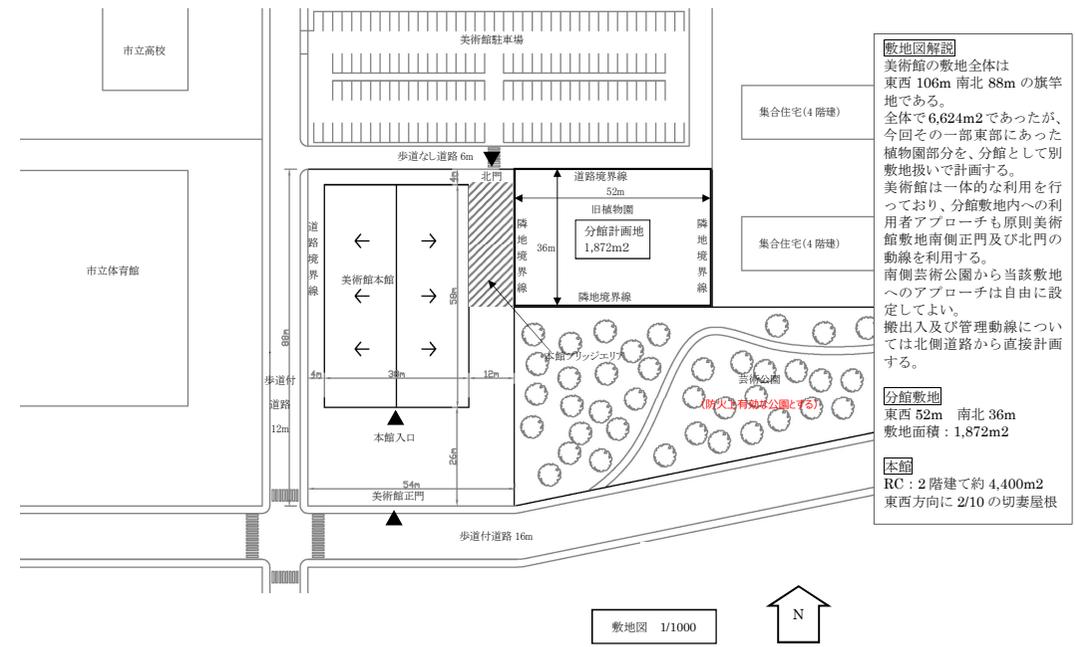
2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

(1) 地上1～3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。また建ぺい率及び容積率とその計算式についても記入する。

3. 計画の要点等

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

- 周辺環境に対して、配置計画上、景観計画上、配慮した点
- 本館、駐車場等からの動線を含め、アプローチ計画について配慮した点
- 建築物の各部門のゾーニングについて利用形態に応じて配慮した点
- 勾配屋根について構造計画上、配慮した点
- 屋上庭園の排水計画について配慮した点
- 外気処理空調機を含む採用した空調設備との外気、給気、換気、排気について
- 電気設備についてその配置と配慮した点



敷地図解説
美術館の敷地全体は東西106m南北88mの旗竿地である。全体で6,624m²であったが、今回その一部東部にあった植物園部分を、分館として別敷地扱いで計画する。美術館は一体的な利用を行うっており、分館敷地内への利用者アプローチも原則美術館敷地南側正門及び北門の動線を利用する。南側芸術公園から当該敷地へのアプローチは自由に設定してよい。搬出入及び管理動線については北側道路から直接計画する。

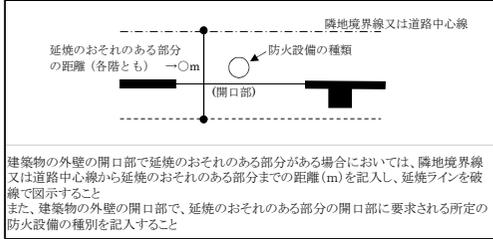
分館敷地
東西52m 南北36m
敷地面積：1,872m²

本館
RC：2階建て約4,400m²
東西方向に2/10の切妻屋根

防火設備等の凡例

防火設備等の凡例
(◎、◎等の表示は、必要な箇所(外壁の開口部、断面図も含む)に全て記入すること)

【建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置(延焼ライン)と防火設備】
防火区画(面積区画・堅穴区画)に応じて、要求される所定の防火設備の位置及び種別を記入すること



5. 図面レイアウト(製図試験.com課題指示:本試験では答案用紙Ⅰに記載)



■添削について
コース生・添削希望者は、図面、要点、エスキース・分析表を同封して下記住所までお送り下さい。〒切は11月25日(月)消印有効。添削は約1週間程度でご返却を予定しています。
〒554-0012 大阪市此花区西九条2-7-8-3F 製図試験.com 事務局
送付前に図面は必ずコピーを取ったのち、その原本を4つ折りして角2号封筒を使用してください。速達、書留、宅急便にする必要はありません。

ver21091123-1版で3箇所修正しています。
・アーチ広場× → アート広場(赤字修正)
・エントランスホール内に階段 → 吹抜け内に階段
→ この部分については添削をノーカウントとします。
・敷地図(防火上有効な公園とする)を追加

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。
 なお、要求図面では表せない計画についても記述する。**(指示されている図示は必須とする)**

(1)周辺環境に対して、配置計画上、景観計画上、配慮した点

	具体的に図解せよ

(2)本館、駐車場等からの動線を含め、アプローチ計画について配慮した点

	具体的に図解せよ

(3)建築物の各部門のゾーニングについて利用形態に応じて配慮した点

(4)勾配屋根について構造計画上、配慮した点

※要点・図面・エスキースの裏面には念のため、氏名のみお書き添えください。
 製図試験comIDのない方はIDは空欄でお願いします。受験番号とかは書かないようにしてください。

(5)屋上庭園の排水計画について配慮した点

具体的に図解せよ	

(6)外気処理空調機を含む採用した空調設備との外気、給気、還気、排気について

具体的に図解せよ	採用した空調設備:

(7)電気設備についてその配置と配慮した点

